

移住によるスキルのソーティングと地域間賃金格差：

日本の個票データによる分析

岡本亮介（政策研究大学院大学）

中島賢太郎（東北大学）

概要

本稿は、日本における地域間賃金格差に対する個人スキルのソーティングの効果を検証した。高いスキルを持つ個人ほど、移住費用を上回る賃金上昇を得ることができるため、長距離の移住をしやすくなり、大都市には高いスキルの労働者が集積する。このような効果を抽出するため、出身地および現住地の分かる個票データを用いて、賃金方程式において移住変数が与える効果と居住地の効果を区別して推定を行った。その結果、いくつかのタイプの労働者について、移住は賃金に対し正の効果を持つことが分かった。さらにこの推定結果を用いて、移住者が出身地に留まったケースの反実仮想シミュレーションを行なった。その結果、地方における賃金が上昇し、逆に東京圏において低下することによって、地域間賃金格差が縮小することが分かった。すなわち、観察される地域間賃金格差の一部は移住によるスキルのソーティングによるものであることが確認された。